

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：12701
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21520365
 研究課題名（和文） 現代台湾文学にみるジェンダー・ポリティクスとセクシュアリティの編成
 研究課題名（英文） The Architecture of Gender Politics and Sexuality in the Modern Taiwanese Literature
 研究代表者
 白水 紀子（SHIROUZU NORIKO）
 横浜国立大学・都市イノベーション研究院・教授
 研究者番号：10196628

研究成果の概要（和文）：日本側研究者と台湾側の研究協力者がそれぞれ同一作家を研究対象として選び、学会分科会報告、ワークショップ、連続講座、シンポジウムなどを開催して研究交流をおこなった。これらにより、現代台湾文学における「文化の越境」やその過程でなされる「文化の翻訳」の問題を、研究方法を含む文学研究のありかたまで掘り下げて論じ合うことができた。そして台湾社会におけるジェンダー・ポリティクスとセクシュアリティの編成の問題を重層的に捉え、あわせて個別作家研究の深化をはかることができた。

研究成果の概要（英文）：The scholars from Japan and Taiwan both chose the same authors for the research object then exchanged the ideas through the departmental conference, workshop, serial lecture and symposium. By conducting these, we could discuss thoroughly “the crossing the border of culture” and the problems of “the translation of culture” through its process. Moreover, we could capture the layers of the problems about the architecture of gender politics and sexuality in the Taiwanese society and deepen the research of the individual authors.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：台湾文学・ジェンダー・セクシュアリティ・異文化衝突・文化の越境

1. 研究開始当初の背景

本研究は、台湾中興大学台湾文学研究所長の邱貴芬教授が企画責任者となっている国際研究プロジェクト「Taiwan literature in the context of inter-national gender studies」

（国際ジェンダー研究の文脈における台湾文学）（以下、邱貴芬プロジェクトと略称）のカウンターパートナーである日本側研究グループ（日本側責任者は本研究の研究代表

者白水紀子)による共同研究である。邱貴芬プロジェクトは台湾国家科学委員会の研究補助を得て2008年9月から2010年8月までの3年計画でスタートした、台湾側4名、日本側5名の計10名による共同プロジェクトである。その概要は、「国際ジェンダー研究の文脈における台湾文学」というテーマのもとで、台湾作家が異文化衝突時に生じる文化問題をどのように思考し、それを創作においてどのように表現しているかを主としてジェンダーの視点を導入しながら探るものである。

本研究は、上記の共同プロジェクトをベースにしつつ、共同研究期間終了後も日本側研究グループによる研究を継続発展させるために、研究課題名を「現代台湾文学にみるジェンダー・ポリティクスとセクシュアリティの編成」とし、セクシュアリティ研究の視角を追加することで邱貴芬プロジェクトとの差別化をはかった。そのための準備として、2008年に邱貴芬プロジェクトの企画段階で研究対象作家を選定する際に、セクシュアリティの問題にも深く関与している作家を選び、それにあわせて日本側研究グループを組織した。

2. 研究の目的

文学におけるジェンダー批評のテーマは、恋愛、結婚、家族問題から国家や民族の問題にまで広がりを見せ、人間の主体性回復の問題や異性愛中心文化批判、その脱構築の試みなど刺激に富む研究が展開されている。しかしながら、ジェンダーとセクシュアリティは連動しているにもかかわらず、実際にはジェンダー・ポリティクスが問題としてきた内容には、身体・セクシュアリティのテーマは棚上げされた状態にある。また一方で、科学技術とグローバリゼーションの要素が近代のセ

クシュアリティの体制を塗り替えつつある現在、言語・慣習・制度などの様々なレベルにおいて身体を統制するパワー・ポリティクスの中で生じる、身体の欲望と現実社会の規範との違和、身体経験のリアリティ、身体の他者性の問題などは、セクシュアリティ研究の範囲内でおさまりきれぬ問題ではなく、自ずとさらに複合的な視点での研究が求められている。そこで本研究は、現代台湾文学における「文化の越境」やその過程でなされる「文化の翻訳」の問題を考察することを通して、台湾社会におけるジェンダー・ポリティクスとセクシュアリティの編成の問題を重層的に捉え、あわせて個別作家研究の深化をはかることを目的とした。

3. 研究の方法

文化の翻訳とは、出版されたテキストがただ原文に忠実であるかどうか、といった問題だけを指すのではなく、むしろ翻訳がいかに対応する言葉、文化、心理、および社会的情景を新たに創造するかにある。異文化衝突に際して作家たちがもとのテキストにいかになんか新たな生命を獲得させるか、どのように新たな社会的リアリティを描写し、歴史を捉えなおし、新たな社会的想像を生み出しているかなど、文化の翻訳、受容、奪用の問題は、作家の文化受容感覚の構造に関わる興味あるテーマであり、この過程には当然、ジェンダーやセクシュアリティの問題が存在する。本研究の方法的特色は、日本側研究者全員がすでに台湾文学作品の翻訳を多数手がけていること、さらにその日本側研究者と台湾の研究協力者が同一作家を対象とする研究を進めたところにある。またこのために日本台湾学会分科会報告、ワークショップ、連続講座、シンポジウムなどを開催して日台両研究者の研究交流の場を設けた。

4. 研究成果

日台両研究者が同一の作家を対象に選ぶことで、研究方法を含めた文学研究のありかたまで具体的に論じ合う場を作り出すことができ、研究対象となる作家だけでなく、その翻訳を担当した日本人研究者グループ自身にも文化の翻訳の問題を投げかける緊張感のある研究企画となった。具体的には以下の成果があった。

<平成 21 (2009) 年度>

以下の①②では、台湾の研究協力者の研究報告と日本側研究分担者・研究協力者による批評を中心に研究交流をおこなった(22年度はその逆の形で交流を行った)。また③は研究代表者の白水紀子および研究分担者の四方田(垂水)千恵が全体企画に関わったもので、うち2回は本研究課題に即した内容を取り上げた。また、白水は奈良女子大学でのシンポジウム「クイアと文学」にて講演「台湾セクシュアル・マイノリティ文学概観」を行い(11月27日)、四方田(垂水)は名古屋大学での連続講演会「台湾文化の現在」にて講演「台湾セクシュアル・マイノリティ文学—邱妙津『ある鱈の手記』」を行った(11月7日)。これらによって共同研究の基礎を形成すると同時に成果の一部を公開することができた。

①2009年6月6日日本台湾学会第11回学術大会(日本大学文理学部)分科会報告

企画責任者:白水 紀子(横浜国立大学)

座長:白水 紀子

報告者:

邱貴芬(中興大学)「可視化/不可視化される原住民族女性:シャマン・ラポガンの創作にみるジェンダー・ポリティクス」

詹閔旭(成功大学大学院)「白先勇の各時期における「中国翻訳」の策略」

コメンテーター(担当順):下村 作次郎(天理大学)、三木 直大(広島大学)

②2009年6月7日「国際ジェンダー研究の文脈における台湾文学」第1回ワークショップ(日本大学文理学部)

司会:山口守(日本大学)

報告1. 徐照華(中山医学大学)「焦桐現代詩の性別書写研究」

コメンテーター:池上貞子(跡見学園女子大学)

報告2. 楊翠(中興大学)「独白と対話—邱妙津書信体/手記体の書写策略と性別言説」

コメンテーター:垂水千恵(横浜国立大学)

③2009年9月5日,6日,19日,20日台湾文学連続講演会「越境しあう日本と台湾の文学」

主催:神奈川近代文学館・(財)神奈川文学振興会/国立台湾文学館

協賛:横浜国立大学

場所:神奈川近代文学館

*9月19日「台湾のクイア文学と日本のSF、クイア、ファンタジー」

対談:劉亮雅(台湾大学教授)×小谷真理(評論家)

司会:垂水千恵(横浜国立大学)

*9月20日「台湾文学とセクシュアリティ」

講師:紀大偉(作家・アメリカコネチカット大学准教授)

司会:白水紀子(横浜国立大学)

<平成 22 (2010) 年度>

①日本側研究分担者・研究協力者による研究報告と台湾の研究協力者による批評を中心にシンポジウムを開催して研究交流をおこなった。

2010年8月24日,25日シンポジウム「跨國研究脈絡下的台灣文學:性別、國族與跨文化流動」(国際的な文脈における台湾文学:ジ

エンダー・エスニシティと異文化流動」を海外研究協力者である邱貴芬が主催し、台湾中興大学にて開催した。台湾側の研究者の邱貴芬、陳國偉、楊翠、王鈺婷、徐照華、陳俊啓、詹閔旭、羅秀美、申惠豊がコメンテーターを務め、ほかに作家の焦桐、陳雪、阮慶岳、吳明益、洪凌が出席して、著者・訳者・研究者合同の研究交流が実現した。これらは一般公開され、報告論文は報告集（中国語）として配布された。前年の経験を踏まえ、より詳細で具体的な討議を行うことができ、これによって共同研究の基盤が形成され、研究者のネットワークを構築することができた。

<平成 23 (2011) 年度>

研究成果のまとめ及びその公開が主要な内容となった。具体的には、これまでにシンポジウムや学会企画、ワークショップで発表してきた研究成果を、研究のカウンターパートナーのコメントや研究交流で示された意見などに基づいて修正したものを報告書（簡易製本 総 208 頁）にまとめ、関係の研究所、研究者へ配布して、研究成果の公表をおこなった。

報告書に収録した論文の作者は、白水紀子（研究代表）、池上貞子、山口守、四方田（垂水）千恵（以上、研究分担者）三木直大（連携研究者）、および海外研究協力者の邱貴芬、詹閔旭、徐照華、楊翠、などである。また海外研究協力者の論文に関しては、上記報告書だけでなく、以下の大学紀要に掲載して公表した。

1 池上貞子・徐照華（原正人編訳）「台湾詩人焦桐の詩における女性の表象—日本と台湾の視点から」『コミュニケーション文化』第 5 号（2011 年 3 月）（跡見学園女子大学文学部コミュニケーション文化学科）

2 詹閔旭「国族叙事下の同志生命経験：従文化翻訳談白先勇の青春版《牡丹亭》『中

国語中国文化』第 8 号（2011 年 3 月）

3 邱貴芬著/下村作次郎訳「台湾原住民文学の境界交差創作の研究方法について—シャマン・ラポガンの散文創作を例として—」『中国文化研究』第 26 号（2010 年 3 月）天理大学

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

- ① 四方田（垂水）千恵、邱妙津作品における「鱈」という表象の源泉をめぐって—台湾現代文学における日本文学の「引用」、横浜国立大学留学生センター教育研究論集、有、19、2012、1-15
- ② 垂水千恵、1930 年代日本文学における「野蠻」への共鳴をめぐって—大鹿卓『野蠻人』・谷崎潤一郎『武州公秘話』・山部歌津子『蕃人ライサ』を中心に—、日本研究、高麗大学校（韓国）、有、15、2011、65-99
- ③ 池上貞子・徐照華（原正人編訳）、台湾詩人焦桐の詩における女性の表象—日本と台湾の視点から、コミュニケーション文化、跡見学園女子大学文学部コミュニケーション文化学科、無、第 5 号、2011、50-62
- ④ 池上貞子、抗衡越界之歌—淺談也斯日譯本詩集《亞洲的滋味》、明報月刊（香港）、無、第 46 卷第 10 期、2011、62-66
- ⑤ 山口守、記憶への旅（7）中国、リベラシオン、有、第 143 号、2011、66-81
- ⑥ 山口守、新世紀文学ナビ・台湾編 1~10、毎日新聞、無、1~10、2011、1-1
- ⑦ 邱貴芬著/下村作次郎訳、台湾原住民文学

の境界交差創作の研究方法について——
シャマン・ラボガンの散文創作を例とし
て、中国文化研究、無、26号、2010、9-45

- ⑧ 白水紀子、台湾女性文学における郷土想像——陳雪「橋上的孩子」を中心に、日本中国学会報、無（学会依頼論文）、第62集、2010、285-299
- ⑨ 白水紀子、紀大偉小説中女性主體意識の回復與母女關係——試論酷兒科幻小説〈膜〉、感官素材與人性辯證 國際學術研討會論文集、国立成功大学中文系（台湾）、有、2010、1-15
- ⑩ 白水紀子、紀大偉のクィア SF「膜」を読む、台湾文化表象の現在、あるむ出版、有、2010、143-168
- ⑪ 白水紀子、從陳雪《橋上的孩子》看女性郷土想像、台湾文学学報、政治大学（台湾）、有、第17期、2010、45-66
- ⑫ 垂水千恵、關於邱妙津作品裡日本文學的「引用」——與村上春樹《挪威的森林》的互文性(intertextuality)為中心、感官素材與人性辯證 國際學術研討會論文集、国立成功大学（台湾）、有、2010、17-26
- ⑬ 山口守、台湾文学研究の現在——歴史・言語・共同性をめぐって、中国——社会と文化、有、第24号、2009、349-367
- ⑭ 山口守、白先勇小説中の現代主義——《台北人》的記憶與鄉愁、台湾文学学報（台湾）、有、第14期、2009、1-17
- ⑮ 垂水千恵、酷兒(クィア)と怪胎(クィア)のあいだで——「台湾セクシュアル・マイノリティ文学シリーズ」刊行をめぐる経緯、新潮、無、106(4)、2009、234-237

[学会発表] (計 11 件)

- ① 下村作次郎、「義人吳鳳」の誕生地・諸羅県（嘉義）—吳鳳物語の生成—、「阿里山

百年林業国際研討会」第七屆「嘉義研究」
學術研討会、2011年10月14日、嘉義大
学（台湾）

- ② 垂水千恵、台湾という身体の「再現」——
真杉静枝を書くということ—、中央研究
院人文社会科学研究中心亜太地域研究專
題中心主催；「『日本文学中的台湾』国际
學術研討会」、2011年10月7日、中央研
究院（台湾）
- ③ 下村作次郎、從翻譯來看台灣原住民文
學、天理台灣學會第20屆國際學術紀念大
會、2010年9月10日、國立台灣大學（台
湾）
- ④ 白水紀子、「從陳雪《橋上的孩子》看女性
郷土想像」、シンポジウム「跨國研究脈絡
下的台灣文學：性別、國族與跨文化流動」、
2010年8月24、25日、中興大学（台湾）
- ⑤ 垂水千恵、關於邱妙津作品裡日本文學的
「引用」2——以鱷魚意象之來源為中心、
シンポジウム「跨國研究脈絡下的台灣文
學：性別、國族與跨文化流動」、2010年8
月24、25日、中興大学（台湾）
- ⑥ 池上貞子、焦桐創作中的女性表徵——閱
讀〈茉莉花遺事〉、シンポジウム「跨國
研究脈絡下的台灣文學：性別、國族與跨
文化流動」、2010年8月24、25日、中興
大学（台湾）
- ⑦ 山口守、白先勇與60年代現代主義——從
紐約客到台北人、シンポジウム「跨國研
究脈絡下的台灣文學：性別、國族與跨文
化流動」、2010年8月24、25日、中興大
学（台湾）
- ⑧ 下村作次郎、從翻譯探討台灣原住民族文
學中的女性形象——原住民族女性能否被
「看得見」、シンポジウム「跨國研究脈絡
下的台灣文學：性別、國族與跨文化流動」、
2010年8月24、25日、中興大学（台湾）
- ⑨ 三木直大、阮慶岳的〈河内美麗男〉——

「酷兒研究」與「族群研究」相接觸的地方、シンポジウム「跨國研究脈絡下的台灣文學：性別、國族與跨文化流動」、2010年8月24、25日、中興大學（台灣）

- ⑩ 白水紀子、紀大偉的感官世界——試論酷兒科幻小說〈膜〉、「感官素材與人性辯證」國際學術研討會、2010年3月6日、國立台灣文學館（台灣）
- ⑪ 垂水千惠、關於邱妙津作品裡日本文學的「引用」——與村上春樹《挪威的森林》的互文性(intertextuality)為中心、「感官素材與人性辯證」國際學術研討會、2010年3月6日、國立台灣文學館（台灣）

[図書] (計4件)

- ① 陳玉慧著/白水紀子訳、人文書院、女神の島、2011、333
- ② 陳雪著 / 白水紀子訳、現代企画室、橋の上の子ども、2011、219
- ③ 也斯著/池上貞子訳、思潮社、アジアの味——也斯詩集、2011、181
- ④ 垂水千惠、他、あるむ、響き合う台湾文化表象の現在、2010、281

6. 研究組織

(1) 研究代表者

白水 紀子 (SHIROUZU NORIKO)

横浜国立大学・都市イノベーション研究院・教授

研究者番号：10196628

(2) 研究分担者

池上 貞子 (IKEGAMI SADAKO)

跡見学園女子大学・文学部・教授

研究者番号：10168114

山口 守 (YAMAGUCHI MAMORU)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：70210375

下村 作次郎 (SHIMOMURA SAKUJIROU)

天理大学・国際文化学部・教授

研究者番号：20148670

四方田 (垂水) 千恵 (YOMOTA/TARUMI CHIE)

横浜国立大学・留学生センター・教授

研究者番号：70251775

(3) 連携研究者

三木 直大 (MIKI NAOTAKE)

広島大学・総合科学研究科・教授

研究者番号：10190612